

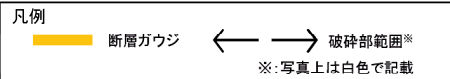
H24-D1-1 深度60.12~60.15m断層ガウジの幅 (No.最-11) を変更

- H24-D1-1 深度60.12~60.15m の破碎部において断層ガウジが2条確認できることから合計値の0.2cmに変更した。

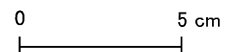
### 断層ガウジ・断層角礫の幅算出資料(H24-D1-1 深度60.12~60.15m)

- 実測した断層ガウジの幅は計0.2cmである。

コア写真



青枠部拡大



**1. 変更内容、理由及び断層連続性評価への影響**

・破砕帯範囲を68.84～69.20mに変更 (No.最-12)

【理由】69.00m～69.20mについて、粘土脈が認められることからCT画像を用いて破砕帯範囲を変更

・最新活動面の深度を69.06mに変更 (No.最-13)

【理由】変更後の破砕帯範囲において、最新活動面を再認定した結果に変更

・走向・傾斜をN61W83Nに変更 (No.最-14)

【理由】変更後の最新活動面の走向・傾斜に変更

・破砕幅を20.6cmに変更 (No.最-15)

【理由】破砕帯範囲の変更に伴い、再計測した結果に変更

・断層ガウジの特徴の有無を有に変更 (No.最-16)

【理由】変更後の破砕帯範囲に断層ガウジの特徴があることを確認

・断層ガウジの幅を0.1cmに変更 (No.最-17)

【理由】変更後の破砕帯範囲において、断層ガウジと評価した範囲の計測結果に変更

・明瞭なせん断構造・変形構造を「無」に変更 (No.最-18)

【理由】本破砕部について断層ガウジ「有」としたためボーリングコアにおける観察結果に変更

・条線を7Rに変更 (No.最-19)

【理由】変更後の最新活動面で取得したデータに変更

・変位センスを左ずれセンスに変更 (No.最-20)

【理由】最新活動面の変更に伴い、再作製した薄片による観察結果に変更

【断層連続性評価への影響】なし

## 2. 変更箇所

- a 破碎帯範囲を変更 (No.最-12)
- b コア写真を変更 (No.最-12)
- c 走向・傾斜を変更 (No.最-14)
- d 破碎幅を変更 (No.最-15)
- e 断層ガウジとした範囲を示すカラーバーを追加 (No.最-16) , 最新活動面を示す赤矢印を追加 (No.最-13)
- f 断層ガウジの幅を変更 (No.最-17)
- g 最新活動面の明瞭なせん断構造・変形構造を変更 (No.最-18)
- h 条線を変更 (No.最-19)
- i 変位センスを変更 (No.最-20)
- j 最新活動面変更に伴い再作製した薄片観察結果に変更 (No.最-12～No.最-20)

H24-D1-1 深度68.84~69.00m 破砕帯範囲 (No.最-12) 及び破砕部性状 (No.最-13~最-20) を変更

従前

第833回審査会合

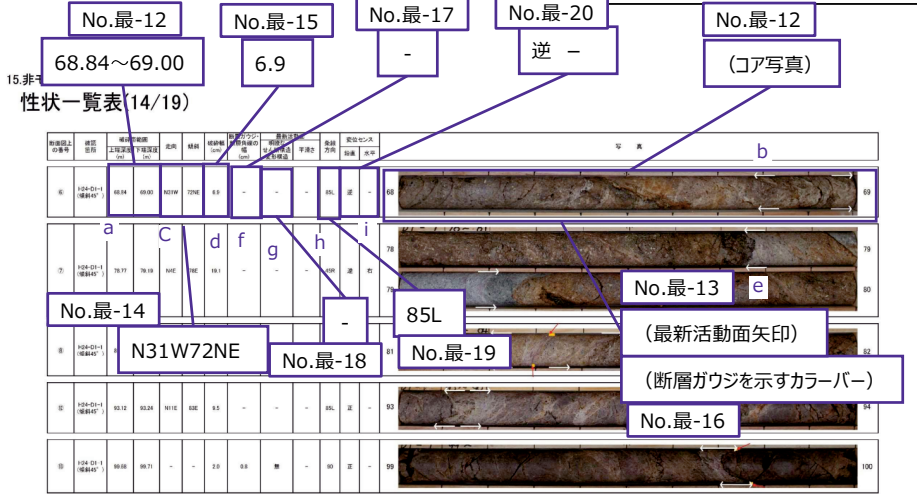
机上配布資料2

敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

参考資料2 性状一覧表

参考2-186頁

第833回審査会合 机上配布資料2に追記(青太枠)



性状一覧表(14/19)

| 深度(m)       | 性状No. | 性状          |
|-------------|-------|-------------|
| 68.84~69.00 | 最-12  | 68.84~69.00 |
| 6.9         | 最-15  | 6.9         |
| -           | 最-17  | -           |
| 逆 -         | 最-20  | 逆 -         |
| (コア写真)      | 最-12  | (コア写真)      |
| 79.77       | 最-14  | N31W72NE    |
| 85L         | 最-13  | 85L         |
| No. 最-18    | 最-18  | No. 最-18    |
| No. 最-19    | 最-19  | No. 最-19    |
| No. 最-16    | 最-16  | No. 最-16    |

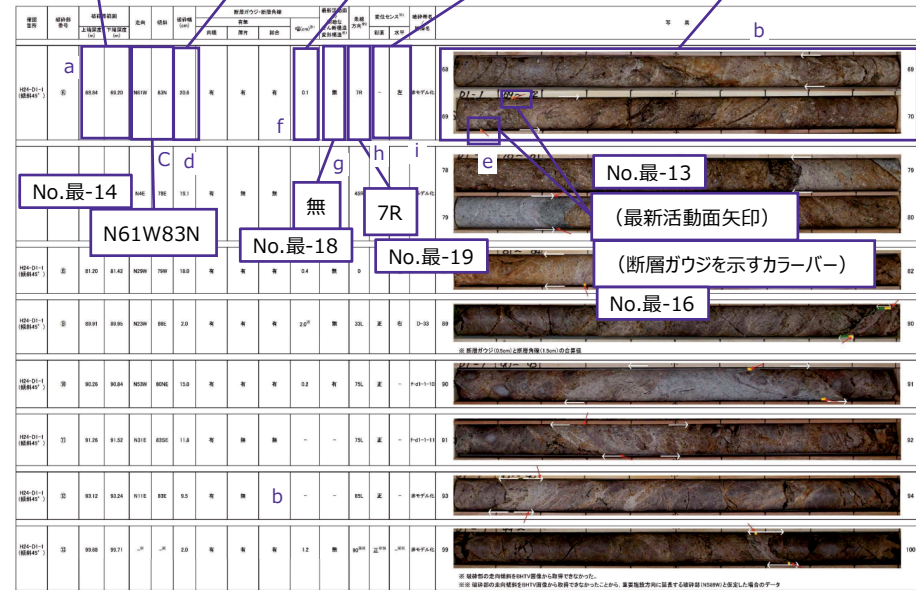
凡例  
 最新活動面 ← → 破砕帯 断層ガウジ 断層角縁  
 \*1 図解 \*2 記載  
 \*3 図解 \*4 記載

【破砕帯】  
 層状破砕帯、砂状破砕帯、角縁状破砕帯、固結した粘土状破砕帯、固結した砂状破砕帯、固結した角縁状破砕帯の合計の種とし、破砕帯の走向傾斜から真の種に換算した。  
 【平層】  
 平層 最新活動面が連続的なもの  
 非平層 最新活動面が断層するもの

参考2-186

見直し後

No.最-12 68.84~69.20  
 No.最-15 20.6  
 No.最-17 0.1  
 No.最-20 - 左  
 No.最-12 (コア写真)



凡例  
 最新活動面 ← → 破砕帯 カラーバーが付いていない区間はカタラーサイトを示す  
 断層ガウジ 断層角縁

※1 断層区分の総合評価に基づき記載し、肉眼「年」のうち総合評価「無」となる箇所は「-」を記載  
 ※2 斜めボアリングの場合は、計測値を補正した値を記載  
 ※3 卓越しない成分については「-」を記載(再成分「-」は薄片観察を行っていない箇所)  
 -(上記以外): データを取得していない箇所

第7.4.4.412図(2) 破砕部性状一覧 (024-D1-1)



H24-D1-1 深度68.84~69.00m 破碎帯範囲 (No.最-12) 及び破碎部性状 (No.最-13~最-20) を変更

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料 1

敦賀発電所 2号炉 敷地の地形, 地質・地質構造について

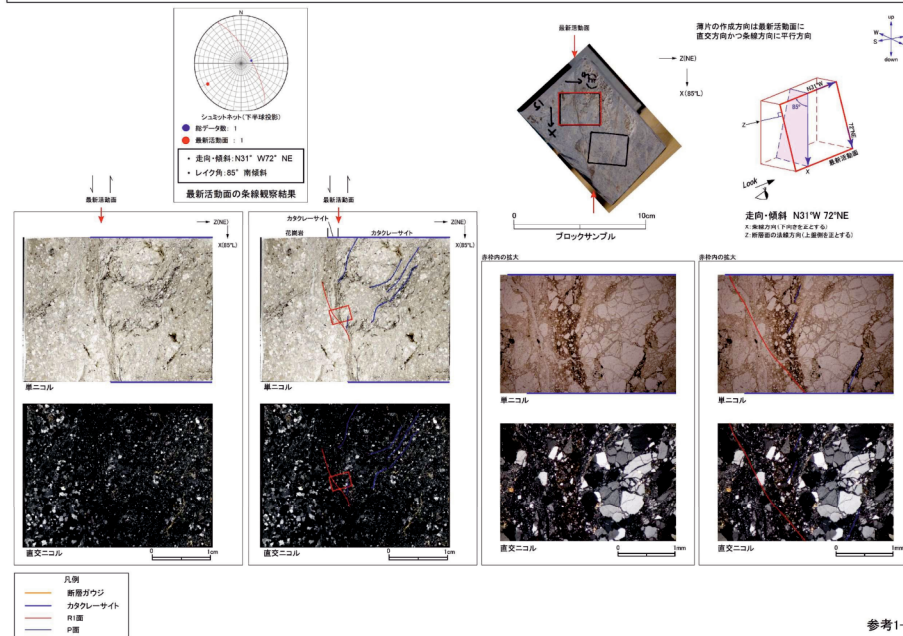
参考資料 1 薄片観察結果

参考1-217頁

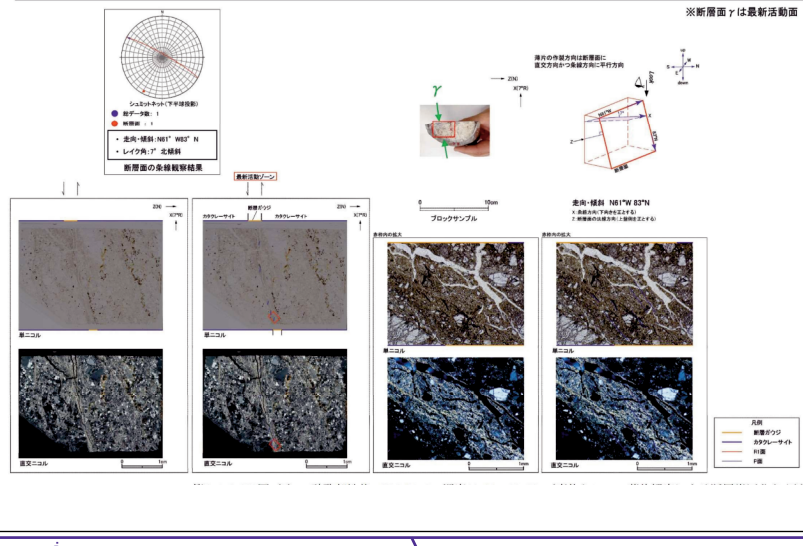
第833回審査会合 机上配布資料1に追記(青太枠)

非モデル化破碎部 薄片試料観察 (H24-D1-1 深度68.93m)

H24-D1-1のボーリングコア(深度68.93m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の方位センスは、逆断層成分が卓越する。



H24-D1-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの方位センスは、左ずれ成分が卓越する。  
 ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジのみからなる破碎部であると判断した。  
 > (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。  
 > (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的かつ連続的である。  
 > 岩片は少ない。  
 > (断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。



No.最-12~最-20

従前のデータに基づく薄片観察結果

No.最-12~最-20

変更後のデータに基づく薄片観察結果

H24-D1-1 深度68.84~69.00m破砕帯範囲 (No.最-12) を変更

・ H24-D1-1 深度68.84~69.00m の破砕部において、69.00~69.20mまで複数の粘土脈が認められることから、CT画像の確認を行い破砕帯範囲を68.84~69.20mに変更した。

・ボーリング柱状図では、粘土混じり岩片状を示す深度68.84~69.00mを破砕部範囲としていたが、コア写真及びコア観察で、深度69.00m以深、深度69.20mまで、同様の粘土混じり岩片状部及び複数の灰白~灰赤色の粘土脈が認められることから、破砕部範囲を再検討する必要があると判断した。  
 ・内部構造を詳細に観察するために、深度68.84~69.00mの破砕部及びその下位区間のCT撮影を実施し、破砕部周辺の構造を3次的に確認した。

コア写真



ボーリング柱状図

●68.84~69.00m: 破砕部  
 68.84~68.93m: 粘土混じり岩片状部 (Hj)  
 上端50°で不明瞭、下端55°でやや波打って連続。径5~10mmの粘土化した岩片主体。明灰褐~灰白色を呈する。幅32mm。  
 68.93~68.95m: 粘土質礫状部 (Hb)  
 上端55°、下端50°でもにやや波打って連続。径5~18mmの粘土化した岩片を多く含む。やや硬質。石英は殆んど含まない。上下端は幅1~4mmでマンガン鉱染を受け灰黄褐色化。これ以外は灰白色を呈する。幅20~30mm。  
 68.95~69.00m: 粘土混じり岩片状部 (Hj)  
 上端50°、下端45°でもにやや波打って連続。径5~10mmの粘土化した岩片主体。下端は幅2mmの硬質な淡褐色粘土脈を伴う。灰褐色を呈する。幅32~35mm。  
 69.00~69.73m: 大半の割れ目は消滅するが、69.42mに傾斜68°、69.67mに傾斜70°で直線的でシャープな割れ目が残留する。  
 69.06~69.18m: 傾斜60~80°で幅2~8mmの灰赤色粘土脈が湾曲しながら連続する。

凡例  
 ← → 破砕部範囲\*  
 .....> 再検討による破砕部下端\*  
 ※: 写真上は白色で記載



※深度69.00mを境に面構造の姿勢が大きく異なっているが、これはコア箱収納時にコアが回転したものである

第7.4.4.253図 (1) 破砕部性状 H24-D1-1 深度68.84~69.00m (破砕部範囲の検討)

6-7-761

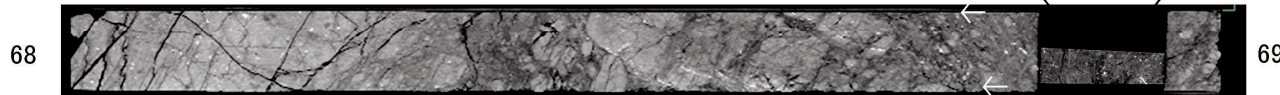
H24-D1-1 深度68.84~69.00m破碎帯範囲 (No.最-12) を変更

・CT画像より、深度68.84~69.00mに、亜円礫の配列や縞状のせん断面・破碎構造が認められる。

コア写真

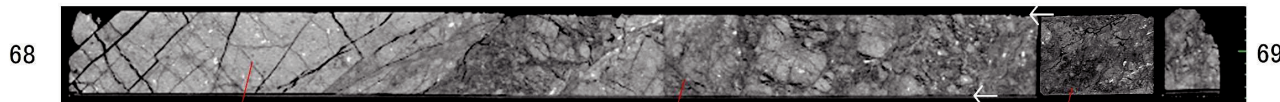


CT画像



※研磨片作製範囲

CT画像(側面)



6-7-762

深度68.84m以浅は、均質で、亜円礫の配列や縞状のせん断面・破碎構造は認められない  
規則的な節理が認められる

深度68.84m~69.00mは、亜円礫の配列や縞状のせん断面・破碎構造が認められる

一部割れ目が多く、基質の密度が低いが、亜円礫の配列や縞状のせん断面・破碎構造は認められない  
一部原岩組織を残し、規則的な節理が認められる

凡例  
← → 破碎部範囲\*  
※:写真上は白色で記載

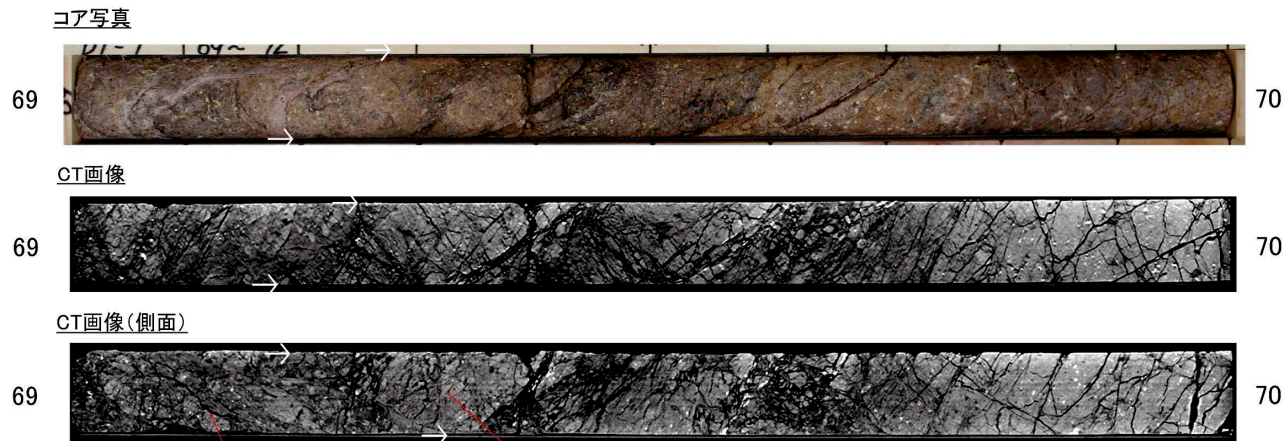
第7.4.4.253図 (2) 破碎部性状 H24-D1-1 深度68.00~69.00m (CT画像による評価)



H24-D1-1 深度68.84~69.00m破碎帯範囲 (No.最-12) を変更

・CT画像より深度69.00~69.20mに、亜円礫の配列や縞状のせん断面・破碎構造が認められる。深度69.00m以浅と比較して、構造に明瞭な差異は認められず、密度が低く、亜円礫の配列や縞状のせん断面・破碎構造が連続して分布している。  
 ・深度69.20m以深には亜円礫の配列や縞状のせん断面・破碎構造が認められず、原岩組織を残していることから、破碎部範囲を深度68.84~69.20mに見直すこととした。

6-7-763



深度69.00m~69.20mは、密度が低下し、局部的に原岩組織を残すものの大半が失われ、全体に亜円礫の配列や縞状のせん断面・破碎構造が認められる

深度69.20m以深は、密度が高く均質で、原岩組織を残し、節理が認められ、亜円礫の配列や縞状のせん断面・破碎構造は認められない  
 角礫状を呈する部分も、亜円礫の配列や縞状のせん断面・破碎構造は認められない

凡例  
 ← → 破碎部範囲\*  
 ※:写真上は白色で記載

第7.4.4.253図 (3) 破碎部性状 H24-D1-1 深度69.00~70.00m (CT画像による評価)

H24-D1-1 深度68.84~69.20m破砕帯範囲 (No.最-12) の変更に伴い、最新活動面 (No.最-13) を変更

- 変更後の最新活動面認定方法によると、H24-D1-1 深度68.84~69.20m の破砕部における、最新活動面は深度69.06mの断層面であるため変更した。

H24-D1-1 深度68.84~69.20m ボーリングコア観察 断層面の認定(1/2)

- ボーリングコア観察において、深度68.93mに断層面  $\alpha$  が、深度68.95mに断層面  $\beta$  が、深度69.06mに断層面  $\gamma$  が認められる(断層面  $\gamma$  の記載は次ページ)。
- 断層面  $\alpha$  は細粒部を伴い、凹凸を有し、直線性にやや乏しい。不連続部は認められず、連続性には富む。
- 断層面  $\beta$  は湾曲及び凹凸が認められ、直線性に乏しい。不明瞭な区間があり、連続性に乏しい。

コア写真

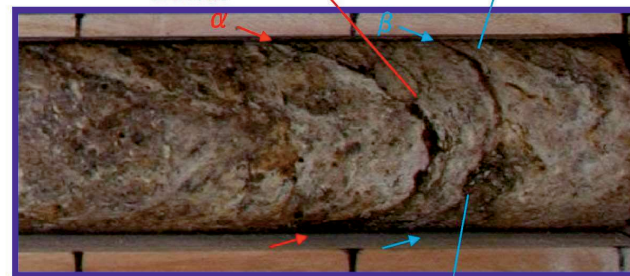


ボーリング柱状図

- 68.84~69.00m: 破砕部
- 68.84~68.93m: 粘土混じり岩片状部 (Hj)  
上端50° で不明瞭、下端55° でやや波打って連続。径5~10mmの粘土化した岩片主体。明灰褐~灰白色を呈する。幅32mm。
- 68.93~68.95m: 粘土質礫状部 (Hb)  
上端55°、下端50° ともにやや波打って連続。径5~18mmの粘土化した岩片を多く含む。やや硬質。石英は殆んど含まない。上下端は幅1~4mmでマンガン鉱染を受け灰黄褐色化。これ以外は灰白色を呈する。幅20~30mm。
- 68.95~69.00m: 粘土混じり岩片状部 (Hj)  
上端50°、下端45° ともにやや波打って連続。径5~10mmの粘土化した岩片主体。下端は幅2mmの硬質な淡褐色粘土脈を伴う。灰褐色を呈する。幅32~35mm。
- 69.00~69.73m: 大半の割れ目は消滅するが、69.42mに傾斜68°、69.67mに傾斜70° で直線的でシャープな割れ目が残留する。
- 69.06~69.18m: 傾斜60~80° で幅2~8mmの灰赤色粘土脈が湾曲しながら連続する。

凡例  
← → 破砕部範囲\*  
※: 写真上は白色で記載

凹凸が認められるが不連続部は認められない  
湾曲及び凹凸が認められる



青枠部拡大

凡例  
← → 断層面

不明瞭となる